



ふしき みちよ県議

6月定例会議 一般質問

戦争法案に反対を

6月24日から始まった県議選後初の定例会議。ふしき県議は、7月3日、4年ぶりに一般質問にたち、戦争法案とオスプレイの問題、子どもの医療助成の拡充、特別支援学校の大規模化・医療的ケアの必要な子どもたちの通学保障、職員の定数問題をとりあげ、三日月知事・教育長に迫りました。

安倍内閣が強行しようとしている「平和安全法制」は、「海外で戦争する国」につくりかえる戦争法案です。この間の国会論戦で、戦闘地域での兵たん、集団的自衛権、戦乱が続く地域での治安維持活動、どれも海外での武力行使を禁じた憲法9条違反であることが明瞭になってきました。



質問するふしき県議

200人をこえる憲法学者や歴代の内閣法制局長官、自衛隊の海外派遣を担ってきた政府の元高官からも「戦争法案は憲法違反」の声があがっています。世論調査でも5～6割が「憲法違反」、今国会での成立には7～8割が「反対」も当然の結果です。

ふしき県議は、憲法を順守する知事として、戦争法案に反対の意思を表明するよう求めましたが、「国会において慎重に審議されることを望む」とどまりました。高島市饗庭野演習場でオスプレイ参加の日米共同訓練の可能性が高まっています。国に対して県民を危険にさらすオスプレイが再び滋賀の空を飛ぶことのないよう中止を求めよと迫りました。

暴挙！ 県民世論に挑戦 違憲の「戦争法案推進」の意見書を提案 — 自民党県議団

6月定例会議で、自民党県議会議員団は、「戦争法案推進の意見書案」を提案し、7月16日に採決をねらっています。その内容は「平和安全法制に係る関連法案の今国会での成立を図るよう強く求める」というもので、「戦争法案反対」を求める県民多数に挑戦するものとなっています。

県議会とは本来県民の意思を代表するものでなければなりません。その県議会が県民の多数の世論を踏みにじることは、民主主義の否定であり、断じて認められません。閉会日の16日、この意見書を採択するな世論を広げましょう。

中学校卒業まで医療費無料化を

子どもの医療費助成制度は、全国に広がり、厚生労働省が3月末に発表した調査では、中学校卒業まで医療費無料の自治体は、この10年間で11自治体から、103倍の1134自治体となっており、全自治体の65%を占めています。しかし滋賀県の制度は、就学前までで9年前と変わらず、遅れた県となっています。県下市町では、中学校卒業まで無料が3市町に増え、豊郷町では高校までひろがっています。同じ滋賀県に住んでいながら、格差が生まれています。

ふしき県議は、群馬県の例もあげ、少子化対策の柱として、「中学校卒業まで通院も入院も無料化に」と知事に求めました。

群馬県の取り組みを紹介 知事は「検討の素材にしたい」と

群馬県では全国に先駆けて、2009年から通院・入院とも中学校まで医療費無料になっています。その成果として、虫歯・ぜんそく・アトピー性皮膚炎の受診が定期的すすみ、結果として医療費の抑制につながっています。同県担当課では、コンビニ受診（時間外受診）も減少傾向を確認したと。知事は、「検討の素材にしたい」と答弁しました。

みちよの
かけ歩き(記)

1日も早く、医療的ケアの必要な子どもたちに通学保障を

医療的ケアが必要な子どもの保護者による送迎は、県下で46人となっています。先日、養護学校を訪問して、保護者のみなさんに話をお聞きしました。保護者の負担は登下校だけでなく、日常生活における世話もあり、「もう限界です。1日も早く」と。しかし、学校での先生や友だちとのかかわりで、「子どもが成長する姿に希望を見出しています」とおっしゃっておられました。昨年度、事業所の車に看護師が同乗をして登校する実証実験がおこなわれましたが、今年度はまだ具体化がすすみません。市町まかせにせず、県教育委員会の責任をはたすようつよく求めました。

(ふしき)



生活相談会をおこなっています。
第1・3の月曜日午後3～5時まで
ふしきみちよ事務所にて 秘密厳守

2015年 7月8日 発行：ふしきみちよ事務所
大津市末広町4の4 Tel・Fax 077-523-0334
メール mfushiki@beach.ocn.ne.jp
ふしきみちよ公式ホームページ <http://fushiki-michiyo.jimdo.com/>

ふしきみちよ

検索